



11月3日(金)に、相川小学校秋季運動会が開催されました。11月だというのに、暑さを感じるほどの晴天の下、体育の学習の成果を大勢のご家族の皆様にご覧いただくことができました。紅白で得点を競う競争競技では、なんと全種目で同点という結果になりました。かごに入れた玉の数を競う1年生の玉入れも、全く同じ個数の玉がかごに入っていました。紅組も、白組も全力で頑張り、両チーム優勝の結果を残しました。

本年度は、児童の同居のご家族の皆様にご参観いただけるよう準備を進めて参りました。限られたスペースで過度の混雑が心配されましたが、保護者の皆様のご協力により、トラブルはなく安全に運動会を終えることができました。

もう一つ、ご観覧いただいた皆様にご感謝を申し上げたいことがあります。本年度は、例年心配されていた路上駐車が1台もありませんでした。全ての皆様にご協力をいただき、職員は運動会に集中することができました。心より感謝申し上げます。

恵まれた地域で豊かな学習 1年生 秋を探しに

11月13日。1年生が秋を探しに武田神社に出かけました。1ヶ月前にも、秋を探しに行きましたが、その頃と比べて気温もぐんと下がり、自然の様子がガラッと変わっていました。相川小学校は豊かな自然に囲まれています。今回は武田神社の皆様にご協力をいただきました。恵まれた環境の中で、地域の皆様のご協力を得て、豊かな学習を実現することができています。地域の皆様にご感謝申し上げます。



小正月に向けての学習



相川小学校では、地域の皆様をゲストティーチャーとしてお招きし、地域の伝統行事である小正月についての学習に取り組んでいます。11月8日に、地域の皆様にご来校いただき、本年度のご指導について打合せを行いました。今後、繭玉づくり、お柳づくり、獅子舞、お帳屋づくりなどのご指導をいただきます。児童が楽しみにしている学習です。よろしくお願いいたします。

もしもの時に備えて

地震や火災などの災害や、不審者の侵入に備えて、相川小学校では、避難訓練や引き渡し訓練に取り組んでいます。

11月22日には、火災発生を想定しての防災避難訓練が行われました。避難訓練を繰り返すごとに、児童の動きが洗練され、真剣味が増し、安全性が高まっていることを実感します。

11月2日に行われたシェイクアウト訓練では、学校からの指示ではなく、防災無線を聞いて、素早く机の下に潜り、自分の身を守ることができていました。

9月13日には、児童への予告なしの避難訓練が行われました。休み時間に予告なく避難指示の放送が入り、自分たちで行動できる力を育む訓練です。この訓練では、高学年の児童の素晴らしい行動を見ることができました。校庭で遊んでいる児童は、災害時には校庭の中心に集まって身をかがめることになっていますが、急な放送に対し、低学年の児童は慌ててしまい、おしゃべりも多くなりました。それに対して高学年の児童が、優しく声をかけて落ち着かせ、静かに行動するよう指導していました。低学年の児童は、高学年の指導に素直に従い、落ち着きを取り戻すことができていました。災害時に必要とされる、自助や共助の精神が児童の中に芽生えていることを感じました。



令和の日本型学校教育

個別最適な学び
協働的な学び



相川小学校では、全ての子どもたちの可能性を引き出す「令和の日本型学校教育」に取り組んでいます。「令和の日本型学校教育」についてご紹介します。

令和3年4月に更新された中教審答申により「令和の日本型学校教育」が示されました。全ての子どもたちの可能性を引き出すために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現していきます。

「個別最適な学び」とは、一人一人の児童の学力や興味・関心、学習の進度等に応じて、多様な学習機会や指導法を提供する教育の形態です。

これからを生きる子どもたちは、大きく変容する社会に適応し、一人一人が自らの生き方や役割を自覚し、主体的に学び行動する力を身につける必要があります。小学校の学習においても、授業で一斉に1つの学習を進めるだけでなく、個に応じた指導を実現し、児童一人一人に適した学習の個性化を実現していく必要があります。

これらを実現するはじめての一歩として、相川小学校では、複線型授業に取り組んでいます。学習の進路が一本ではなく、複数用意されていて、児

童に選択の機会を持たせる授業を複線型授業といいます。学習の目標を達成するために、どのような視点を持つか、どのような方法で学習を進めるか、どのような教具を活用するかなどを、各自が選択し、自分に合った学習を作り上げていきます。

複線型授業を実現するためには、これまで以上に研究と準備のための時間を確保する必要があります。職員の健康と生活も守りながら、令和の日本型学校教育の実現を図っていきたいと考えております。



文責：校長 桐山 賢一